



## 水島朝穂 『時代を読む 新聞を読んで1997-2008』

独自情報と憲法の視点で、社会の動きを深く分析する

小鷲 順造

(JCJふらっしゅ編集長)

本書は、憲法学者の手による『デスク日記』（小和田次郎）であり、『マスコミ日誌』（新井直之）といえる。人間の身体に健康診断が必要なように、メディアにも「憲法診断」が必要だ。NHKラジオ第一放送は1997年から、番組「ラジオ深夜便」のなかに「新聞を読んで」のコーナーを設けた。

インターネットが爆発的な普及を始める、ちょうど前夜にあたる時期であり、また日本国憲法施行から半世紀の年である。12分30秒の枠のなかで、著者は何をしゃべってもよい。ただし素材は、担当週の新聞に書かれていること。それだけを条件に、著者は当日早朝から、一週間分の新聞切り抜きの山と格闘しつづけてきた。放送開始から08年10月下旬まで、41回分の原稿を本書は収めている。

第1回のテーマは、「ペルー日本大使館公邸人質事件」「脳死を人の死とする法案」「憲法施行50年目の憲法論議」。41回目のテーマは、「新聞と総理大臣の一日」（＝麻生首相の「夜の顔」を追う新聞）、「金融危機、そして消費税増税」（＝国民生活の危機をよそに、解散を先延ばすだけの政治）、最後は海上自衛隊特別警備隊が養成過程のなかで、「訓練」の名目で隊員を暴行、死亡させた「はなむけ」事件。

出来事や事件、社会の動きの背後・背景を見通す著者独自の情報や視点が、整理して収められている。日本国憲法の視点から「いま」を深く理解し、「明日」を的確に読み、展望していくために駆使したい、使える「近過去」の素材集でもある。

■ 柘植書房新社 2800円